

## 教材「羅生門」の語彙研究

河 内 昭 浩

### “Rashomon” Teaching Material for Vocabulary Research

Akihiro KAWAUCHI

#### 1. 問題の所在

##### 1.1 「羅生門」の教材価値

1915（大正4）年に発表された芥川龍之介の「羅生門」が、高等学校国語科の教科書に初めて掲載されたのは、1956（昭和31）年のことである。以来、教科書の定番教材として、高校生に読み継がれてきている。定番教材とは一般に、長く、複数の教科書会社で採択され続けている作品を指す。高等学校では「羅生門」の他に、「山月記」「こころ」などがそれに当たる。

科目「国語総合」の教科書に掲載されていて、高校1年生がその学習者となることの多い「羅生門」は、教師にとっていわば、扱いやすい教材である。まず、教科書の頁にして10数頁と、分量が適量である。主な登場人物は下人と老婆のみと限定的で、また、羅生門の外から中へ、そして外へといった構成も明瞭である。近代文学作品に馴染みが薄く、読書を好まない現代の高校生にも取り組ませやすい。また従来、小説教材で行われてきている、登場人物の心情の変化の読み取りや、作品の主題の把握といった学習活動に必要な要素が、豊富でかつ端的である。学習指導要領の求める、「人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう」<sup>1)</sup> 指導を行うのに大変適した教材であると感じられる。さらに、簡潔な文体とスリリングな展開は、自ずと生徒の興味・関心を引き出す。それは、作品への興味・関心であるとともに、これからはじまる高等学校での国語学習に対する興味・関心へとつながる可能性を、教師は感じ取ることができる。

関口（1992）<sup>2)</sup> は、先行研究を踏まえ、また小説における「主題指導からの解放」を前提とした上で、「羅生門」の教材価値として次の6点を挙げている。

- ①「完成度の高い小説」
- ②「起承転結の結構」
- ③「古典と近代文学」
- ④「文学言語の教育」
- ⑤「ことば・文章・文体の教育」
- ⑥「批評意識の養成」

①、②は筆者上述の内容と重なる。③では、周知の通り「羅生門」が、『今昔物語集』所収の説話を直接の典拠としていることなどに触れ、「学習者に古典に対する興味や関心を持たせる」のに適した教材であると述べている。特に高校1年生で出会う機会の多いことから、「羅生門」は、

1) 文部科学省（2009）「国語総合 2 内容 C読むこと」『高等学校学習指導要領』, p. 26

2) 関口安義（1992）「教材としての『羅生門』」、『『羅生門』を読む』, 三省堂, pp. 150-170

高校2, 3年生での古典学習に向けた、格好の導入教材であるとも言える。また⑥では、「人間の存在の意味やエゴイズムの問題、さらにはテキストのかかえる作家や時代の問題は、学習者の興味と関心とに深く切り結ぶもの」であり、「さまざまな主体的観賞を討論によって深め、他人の考えを聞く中で自らの批評意識を育てることも可能である」としている。この「批評意識を育てる」といった観点は、PISA 調査の結果等を受けて、新しい学習指導要領に加えられた項目<sup>3)</sup>と一致する。関口氏の論に沿って言えば、「羅生門」は、新しく求められる読解力の育成にも対応しており、今後も教材としての価値を保ち続けるのであろう。

## 1.2 「羅生門」のことばと生徒の語彙力

前項で引用した、関口(1992)の④には、「羅生門」は「文学言語の学習に適切な素材」だとある。また文学言語の特質は「日常言語とちがって、多義的な広がりを持つところ」であり、例として「雨」や「夜」を挙げている。また⑤では、次のように述べている<sup>4)</sup>。

ことばに着目し、事象関係を発見させ、その間の意味を考えるというのは、実は教室での「羅生門」の<読み>の核心なのである。国語教育は言葉の学習であるからだ。

例えば、時ということに限定しても、「ある日の暮方」ということばに始まって、「夕闇」とか「夕冷え」ということばが出ており、さらに「雨の夜」「夜の底」「黒洞々たる夜」と続く。このような響き合いのことばを一つ一つ押さえていくことによって、ことばの関係性は発見されるものと言えよう。

授業者の実感として、こうした考え方は大いに賛同できる。私自身、「羅生門」の指導において、「時」や「場所」を示すことばの関係性をつかませることで、作品世界全体を理解させようとする授業をこれまで行ってきた。また、「羅生門」の表現に着目した先行教材研究である片村(1989)<sup>5)</sup>では、「人物呼称」や「指示語」などについての詳細な調査が行われている。それらについても時間が許す限り授業で取り上げ、作者の繊細な使い分けを理解させることで、生徒の「読み」を深めることができるだろう。また、「羅生門」はそのように細部にこだわるのが可能な「完成度の高い」小説である。

しかしここで問題になるのは、そうしたことばの文学性や関係性を理解させる前提としての、生徒自身の語彙力である。例えば、「黒洞々たる夜」ということばは、そのままでは理解できないであろうという想像が容易につく。その通り教科書には語注が付けられており、授業はその語注を理解させた上で進められていく。ところが、「暮方」や「夕闇」といったことばはどうだろうか。これらに語注が付けられることはない。大人にとっては、また授業のたびに繰り返し「羅生門」を読んできた教師にとっては平易なことばが、実は子どもたちにとっては、難解な、あるいは初見のことばであって、すぐには基本的な語義をイメージできないことばなのかもしれない。後述するが、実際、「暮方」も「夕闇」も、社会生活では出会う機会が少ないことばであり、子

3) 1)と同じ。改訂により、「国語総合 C読むこと」に「文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図とらえたりすること。」の項が加えられた。また、学習指導要領の改訂につながる PISA 調査の結果については、文部科学省(2009)『読解力向上に関する指導資料』、東洋館出版社、に詳しい。

4) 2)と同じ、p. 166

5) 片村(1989)「文学教材「羅生門」の表現研究」、『芥川龍之介の作品 文学教材の表現研究』、右文書院、pp. 3-84

どもたちが「知らない」「見たことがない」ことばである可能性が高い。実は、ことばの文学性や関係性を理解する以前の段階で、子どもたちが立ち止まっているのかもしれないのである。

先に、「簡潔な文体とスリリングな展開は生徒の興味・関心を促す」と述べた。しかし、かつては教室全体に見られた、ひたすらに「羅生門」の世界に没入していく姿が、年々小さくなっていくように感じていた。今思えば、作品に没入する前提としての基礎語彙力が、こちらが思う以上に欠けていたのかもしれない。また教科を問わず、教師は、子どもたちの語彙力の低下を嘆く。しかし、具体的に、「なぜ」「どれくらい」「どんな」語彙を知らないかを検証する機会は少なかった。

### 1.3 言語コーパスの応用

そうした中で、現代日本語の書き言葉の実態を数量的に把握し、分析することができる大規模なコーパスがこのほど完成した。国立国語研究所を中心とした、「特定領域研究日本語コーパス」による、日本語の大規模な書き言葉のコーパスである、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese, 以下通称である BCCWJ と呼ぶ)<sup>6)</sup> がそれである。この BCCWJ には、多様なメディア・ジャンルの、1億語以上の書き言葉が、ランダム・サンプリングによって収められている。現代日本語のことばの実像を映したこの BCCWJ を活用することで、例えば前項で述べた、子どもたちの語彙力の低下の背景を、具体的に検証することも可能になった。子どもたちが、あることばを知らないということの原因が、教育(学習)の問題なのか、語彙実態の反映なのかを知ることができる。語彙力の低下を教師が嘆く以前に、そのことばが現代社会で流通していなければ、子どもたちにとってはそもそも知る機会のないことばということになる。

また BCCWJ 内のプロジェクトである「言語政策班」では、BCCWJ とは別に、小・中・高等学校の全教科の教科書、計144冊の日本語全文を入力した、「教科書コーパス」<sup>7)</sup> を作成した。言語政策班は、コーパスの国語教育や国語施策への応用を研究の目的としており、「教科書コーパス」はそうした研究の基礎資料として作成したものである。筆者はこれまで「言語政策班」の一員として、コーパスの国語教育への応用を模索してきており<sup>8)</sup>、今後も研究を続けていく。

「言語政策班」ではさらに、BCCWJ と「教科書コーパス」を基に、「教科書コーパス語彙表」、「教科書コーパス語彙表」並びにその2つの語彙表を合わせて再編集した、「学校・社会対照語彙表」という3つの語彙表を作成した<sup>9)</sup>。これら語彙表の整備により、各コーパスの語彙の全体像や、メディア・ジャンル別の語彙の特徴度などをとらえることができるようになった。

本稿は、教材「羅生門」の語彙を、各コーパス及び語彙表によって考察したものである。定番

6) 文部科学省科学研究費特定領域研究「日本語コーパス」総括班(2011)『「現代日本語書き言葉均衡コーパス」完成記念講演会予稿集』、また以下の HP にも詳しい。

<http://www.tokuteicorpus.jp/>

7) 田中牧郎・近藤明日子・平山允子(2011)「教科書コーパス」、『特定領域研究「日本語コーパス言語政策班報告書 言語政策に役立つ、コーパスを用いた語彙表・漢字表等の作成と活用』言語政策班, pp. 7-54

8) 拙稿(2010)「作文指導におけるコーパスの活用—高等学校での小論文指導を通じて—」、『解釈 第56巻第5・6号』解釈学会, pp. 27-36 など

9) 田中牧郎・近藤明日子(2011)「教科書コーパス語彙表」, 『教科書コーパス語彙表』「学校・社会対照語彙表」, 7) と同じ, pp. 55-68

教材に現代語の光を照射することで、これまで見えなかった学習上の問題や、新たな指導の観点を見出したいと考えている。

## 2. 教科書の語注と語彙レベル

教材「羅生門」の語彙をとらえる手がかりとして、まず教科書の語注を取り上げる。語注とは、多くの場合教科書本文の下段にあり、本文中の語句の解説が、文字や図によってなされているものである。語注は、生徒の本文読解を補助する役割を持つ。逆に言えば、大人が、そのままでは子どもたちが理解できないであろう、読解のために解説が必要であろうと考える語句に注が付けられていることになる。

甲斐 (1973)<sup>10)</sup> は、教材「羅生門」の語注の詳細な検討を行う中で、高校生の読解に配慮する上でどの語句に注をつけるべきなのか、またその教材を通じてどの語句を学ばせるべきなのかについて、「取り上げた項目が十分な検討の上のことなのか」判断できないと述べている。これまでは大人の経験則によって注が付けられていたというのが実際のところであろう。

前節で挙げたコーパスの語彙表には、それぞれの語彙の、メディア・ジャンル別の「語彙レベル」が付けられている<sup>11)</sup>。流通実態 (図書館) サブコーパスに含まれる書籍、生産実態 (出版) サブコーパスに含まれる書籍・雑誌・新聞、非母集団 (特定目的) サブコーパスに含まれる Yahoo! 知恵袋・Yahoo! ブログといった各ジャンルの語彙に対し、度数降順の累積使用率により、a～e の5段階のレベルが付けられている。

ここでは特に、流通実態 (図書館) サブコーパスの中の、書籍における語彙レベル (以下、「レベル\_LB」と記す) と、教材「羅生門」の語注との相関について考察していく。流通実態 (図書館) サブコーパス<sup>12)</sup> は、公共図書館のデータを基に、書き言葉の流通の実態を反映させた、BCCWJ を構成する一つのサブコーパスである。そこでのレベルが高いということは、社会で流通している、つまり一般社会で目にする機会の多い語句だと判断することができる。逆にレベルの低い語句は、目にする機会が少ないことから、子どもたちが、知らない、理解できない語句である可能性が高いと言える。従って語注の役割から考えれば、語注の対象となる語句は、主に「レベル\_LB」の d・e の語句になるものと思われる。

教材「羅生門」の語注の対象となっている語句については、山森 (2006)<sup>13)</sup> を参照した。山森氏が調査された、平成18年度使用教科書会社5社の語注の中から、語彙表に当たるものを、「レベル\_LB」の a～e 別に掲げたのが以下の [表1]<sup>14)</sup> である。

10) 甲斐陸朗 (1973) 「教材研究『羅生門』—教科書の注記を中心として—」, 『国語教育研究 No. 20』, 広島大学教育学部光葉会, pp. 62-73

11) 9) と同じ, pp. 67-68

12) コーパスの構成については、山崎誠 (2011) 「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の構築と活用」, 『現代日本語書き言葉均衡コーパス 完成記念講演会予稿集』 文部科学省科学研究費特定領域研究「日本語コーパス」総括班, pp. 11-20に詳しい。

13) 山森泉 (2006) 「教科書所収の『羅生門』における脚注の比較—学生の語彙理解に関する一考察—」『北陸学院短期大学紀要38』北陸学院短期大学, pp. 139-151

14) [表1] には、13) 中にある語でも、「レベル\_LB」が付与されない、すなわち流通実態サブコーパスには存在しない語、並びに語彙表には存在しない語は掲載していない。掲載していない語は以下の通りである。

[表1]

レベル_LB	語注が付けられた語彙
a	(該当なし)
b	楼 太刀 鞘
c	烏帽子 朱雀 局所 申 くさめ やもり しらみ 墓
d	下人 検非違使 きりぎりす 弩 羅生(門) 太刀帯
e	旧記 洛中 狐狸 低回 築地 丹塗り 市女(笠) 山吹 薨 火桶

事前の予想通り、語注が付けられた語句の多くは「レベル\_LB」の下位に相当するものが多い。特に d・e には、固有語や古語に通じる語が多いのが分かる。しかし中には、「山吹」や「きりぎりす」といった平易と思われる語も見られる。大人には馴染み深く感じられる動植物の語彙が、現代語の流通実態としてすでにあまり見られなくなっていることが分かる。子どもたちが知らないことをことさらに嘆くのではなく、知らないことを前提とした丁寧な指導が教師には求められると言えよう。

また、「楼」「太刀」「鞘」といった語彙が、「レベル\_LB」の b に当たっている。これらは日常に使用する機会は少ないが、流通実態上は重要な語ということになる。特に、歴史小説などの文学作品において多く出現するものと予想される。そうした文学語とでもいふべき文学に特徴的な語彙については、別の機会に検証したいと考えている。また、レベル a・b の語彙は、多く流通している、社会生活を送る上で重要な語彙である。作品読解上のみならず、子どもたちの実生活に生きる語彙になるように指導していく必要がある。

### 3. 教材「羅生門」の語彙と語彙レベルの相関

次に、教材「羅生門」全体の語彙と「レベル\_LB」との相関を表したのが、[表2]である。尚、[表2]中の傍線は語注の付けられた語であることを指す。

まず注目されるには、「レベル\_LB」の a・b の語の多さである。冒頭に記したように、「羅生門」の初出は1915(大正4)年である。しかし100年近い時を経たことばの指標で見ても、「羅生門」には、現代社会で使用される語彙が多いことが分かる。他の芥川作品や、他の文学教材との比較をしなければ厳密なことは言えないが、この a・b の語の多さと、「羅生門」が定番教材として長く読み継がれていることとは無関係ではないと思われる。

一方でレベルの低い語彙の中には、教師が、生徒が「知らない」などとは思えない語彙が見られる。教師がそのことを見過しているために、生徒の読解に支障をきたしている恐れがある。そのことを、「羅生門」の冒頭部を例として考察する。

ある日の暮れ方(e)のことである。一人の下人(d)が、羅生(e)門の下で雨やみ(e)を待っていた。

↙ (LBになし) 辻風 鴉尾 Sentimentalime 汗衫 聖柄 檜皮色 頭身 菜料 黒洞々  
(語彙表になし) 襖 執念し なんぼう 四寸 疫病(えやみ) じゃて 引剥ぎ



[表2]

レベル_LB	語注が付けられた語彙
a	(漢語) 人 門 匹 以上 市 地震 料 始末 習慣 気味 近所 たくさん 勿論 段 主人 当時 適当 模様 影響 けしき 次第 手段 死 道 結局 当 然 積極 勇氣 風 遠慮 範囲 数 人間 事実 人形 部分 一層 瞬間 感情 多分 恐怖 呼吸 記者 丁度 同時 問題 合理 自分 無言 無理 全然 意志 支配 意識 得意 満足 役人 現在 大体 意味
b	(漢語) 火事 仏像 金銀 修理 胡麻 糞 紺 格別 途方 肯定 楼 草履 死骸 好奇 老婆 悪 反感 未練 執拗 明白 生死 憎悪 成就 時分 平凡 (和語) 太刀 鞘
c	(漢語) 円柱 烏帽子 飢饉 死人 点々 永年 朱雀 局所 臭気 嗅覚 木片 善 悪 勝敗 眼球 円満 肉食 失望 侮蔑 気色 (和語) 申 蟋蟀 大路 さびれる 打ち砕く 盗人 点々 引き取る 棄てる 棲む 飛びまわる 上の空 夕焼け にきび くさめ(くしゃみ) やもり 暇 吹き 抜ける 虱 暮 大股 目下 綱 安らか 見下す 鬘
d	(漢語) 格別 衰微 余波 大儀 中段 下人 檢非違使 存外 (和語) きりぎりす 雨風 床板 弩 手荒い (固有) 羅生(門) 太刀帯
e	(漢語) 旧記 仏具 箔 洛中 狐狸 刻限 低徊 逢着 腐爛 暫時 語弊 冷然 (和語) 雨やみ 築地 暮れ方 丹塗り 市女(笠) 山吹 薨 火桶 干魚 白髪頭 喉仏

「下人」,「羅生門」は教科書で語注の付けられる語である。前項で参照した山森(2006)の調査によると,「下人」は5社中2社,「羅生(門)」には5社中5社の教科書で語注が付けられている。教師は,語注を頼りに,生徒が「知らない」と思われる,「下人」,「羅生(門)」の説明をしながら授業を進めていく。一方,「暮れ方」,「雨やみ」に語注を付ける教科書はない。しかし「レベル\_LB」においては,「下人」はd,「羅生(門)」,「暮れ方」,「雨やみ」はeと,いずれも現代語においてほとんど流通していない語彙であることが分かる。「下人」,「羅生(門)」と同様に,「暮れ方」,「雨やみ」も,生徒にとって「知らない」,「見たことがない」語彙である可能性が高いことになる。そのように考えると,この冒頭文は,読み馴染んだ大人(教師)が思う以上に,生徒にとっては難文である可能性がある。

この羅生門の冒頭文は,作者が物語の発端として,5W1Hを端的に示した好文として授業で扱われることが多い<sup>15)</sup>(when-ある日の暮れ方,who-一人の下人が,where-羅生門の下で,what-雨やみを,how-待っていた)。端的な状況設定の描写と,why(なぜ下人は羅生門の下にいるのか)のみを描かない手法によって,読者の興味を引き付けていることなどを理解させる授業を教師は行う。

しかし文構造や作者の意図の読み取りの以前に,この冒頭文においては,個々の語句の意味を一つ一つ丁寧に取り上げていく必要があるのではないだろうか。そしてそれが,先に引用した,関口(1992)の,「ことばに着目し,事象関係を発見させ,その間の意味を考える」という作品読解へとつながっていく。次節において,この冒頭文の語彙に着目し,作品読解へとつなげる授

15) 海老井英次(2008)「小説(1)羅生門」,『高等学校改定版国語総合 指導と研究』第一学習社, p. 74

業の展開例を示す。

#### 4. コーパスを活用した「羅生門」冒頭部の授業展開例

教材「羅生門」の冒頭文を基に、次のような発問を設定する。

次の (A), (B) の違いについて考えてみよう。

(A) ある日の暮れ方のことである。一人の下人が「雨やみ」を待っていた。

(B) ある日の暮れ方のことである。一人の下人が「雨上がり」を待っていた。

辞書を引くと、「雨やみ」と「雨上がり」の意味は次のように出てくる。

雨やみ：雨のやむこと。またその間。雨上がり。

雨上がり：雨のはれあがった後。雨後。あまあがり。

(『日本国語大辞典 第二版』小学館)

辞書の上では、「雨やみ」と「雨上がり」の意味は重なっているように見え、判然としない。また「雨やみ」は、「レベル\_LB」において e, 「雨上がり」は d であり、ともに生徒にとって目にする機会の少ない語彙である。

次に、BCCWJ の用例を検索し生徒に示す。検索には、国立国語研究所の web 上の登録サイトである、「中納言」<sup>16)</sup> を用いる。用例数は以下の通りである。

雨やみ：6 例 (雨やみ：5 例 (「羅生門」のみ), 雨止み：1 例)

雨上がり：98 例 (雨上がり：87 例, 雨あがり：11 例)

「雨やみ」の用例は BCCWJ にもほとんど見られず、「羅生門」以外では次の 1 例のみである。

増益, 出産, 除病, 雨乞い, 雨止みに功德があるといわれ, (書籍/哲学) (傍線部は筆者による。以下同様)

例が少なく明確な判断はできないが、「羅生門」の「雨やみを待っていた」という例と併せて考えると、「雨やみ」には、「雨がやむこと」に対する、使い手の「願い」が込められているように感じられる。

一方、「雨上がり」という語彙もレベル判定の通り、あまり多くは出現しない。ただ、下記のような例を見ると、「雨上がり」と「雨やみ」の違いが見えてくる。

・雨上がりの夜空は、星がたいへんきれいに見える。(教科書 小学国語)

・昨夜の雨は強烈でした。今は、雨上がりの強風が吹いています。(yahoo! 知恵袋)

16) <https://chunagon.ninjal.ac.jp/search>

上記の例の「雨上がり」を、「雨やみ」に変えると不自然さが残る。「雨やみ」は、雨がやむというそのこと、及び雨が降っている状態から、雨がやむまでの間を指す。一方「雨上がり」は文例のように、雨が降っている状態から、雨がやみ終わったその後の時点・状態までを含んでいる。したがって、雨後の状態（星がきれい・強風）との組み合わせが成立するのは、「雨上がり」であって、「雨やみ」ではない。このように、コーパスの用例を用いることで、類義語の違いを生徒に理解させることができる。web サイトを用いてすぐに実践できる、コーパスの国語教育における活用方法の一つである。

さて教科書本文において、下人が待っているのは「雨上がり」ではなく、「雨やみ」である。次に、冒頭部以外の教科書本文の「雨やみ」の箇所を抜き出してみる。

- ・作者はさっき、「下人が雨やみを待っていた。」と書いた。しかし、下人は雨がやんでも、格別どうしようという当てはない。
- ・だから「下人が雨やみを待っていた。」というよりも、「雨に降りこめられた下人が、行き所もなく、途方に暮れていた。」と言うほうが適当である。

当てもなく、行き場もなく羅生門の下にたたずむ下人にとって、「雨上がり」に、雨がやんだ後に、すべき行為はない。つまり下人が待つのは、「雨上がり」ではなく、「雨やみ」でなければならないことが分かる。語義と、その場の状況が、見事に対応している。

このように「雨やみ」について、類義語である「雨上がり」とともに考えさせることで、単なる語彙理解にとどまらず、登場人物のその場の状況を的確に把握させることができる。さらに作品における「雨」の役割や、雨後の想定されない雨の中に主人公を置いた作者の意図について、生徒に考えさせることもできるだろう。

先に述べたように、「雨やみ」は生徒にとって初見の語である可能性が高い。授業で取り上げなければ、生徒はただぼんやりとした理解をするのみであろう。作品前半部では、教師は時代背景にかかわる語の解説に追われてしまうため、「雨やみ」が授業で取り扱われることが少ないはずである。しかし「雨」は場面設定や、主人公の心象につながる重要な「文学言語」<sup>17)</sup>であり、「雨やみ」はぜひとも立ち止まって考えさせたい語彙である。

またこうした着眼点のはじまりは、コーパス語彙表による、作品語彙の客観的な検証にある。経験則に頼りすぎであった教材研究において、実証可能なデータであるコーパスを活用することによって、このように新たな視野を獲得することができる。

## 5. 「注意すべき語句」の検証

最後に、教材「羅生門」に付けられる「注意すべき語句」について取り上げる。「注意すべき語句」とは、語の解説は加えられずに、脚注欄に列挙される語句である。手元にある教科書<sup>18)</sup>の凡例には、この注意すべき語句について、「見開きごとに重要語句をまとめて掲げた。また知っておきたい慣用句は初出を原則に\*印を付し、まとめて掲げた」とある。特に慣用句について

17) 2) と同じ, pp. 164-165

18) 『探求国語総合 現代文・表現編 改訂版』, 桐原書店



「知っておきたい」との前書きがあるが、ここには、単に作品読解のためというだけではなく、実生活の中で使用できるようになってほしいという意味があると受け取ることができる。授業では意味調べとともに、その慣用句を用いた短文作成などを行わせ、生徒の日常に慣用句の定着を図ろうとするのが一般的な授業風景であろう。

ここでは、教材「羅生門」の「注意すべき語句」の中から、特に慣用句を取り上げる。それらがどの程度、またどのジャンルにおいて「知っておきたい」語句なのかを、コーパスによって検証する。

「注意すべき語句」に挙げられている慣用句の抽出には、先に援用した山森（2006）の調査データをここでも借りる。山森（2006）の調査にある、「注意すべき語句」中の慣用句の、BCCWJにおける度数と、主なジャンル別の割合を示したものが[表3]<sup>19)</sup>である。

まず総数で見ると、「念を押す」が圧倒的に多いことが分かる。ジャンルにおいても、割合に違いはあるものの、流通書籍からブログまで幅広く用いられる慣用句であることが分かる。しかし「注意すべき語句」として取り上げている教科書会社は5社中2社と、むしろ少ない。掲載していない会社では、高校1年生の段階では、すでに生徒は理解しているものと判断しているのかもしれない。いずれにせよ教材「羅生門」中で、実生活を送る上で最も「知っておきたい」慣用句であることは間違いなく、教師自身がそのことを知った上で指導に当たらなければならない。

逆に総数が最も少ないのは「人目に掛かる」である。これは、表に掲げたテキスト・ジャンルには1例もない。BCCWJ中にあるのは、教科書中の、この「羅生門」の、「人目に掛かる恐れのない、一晩楽に寝られそうなところがあれば」の1例のみである。もちろん、BCCWJがすべての現代書き言葉を網羅しているわけではないが、現代語コーパスの主要ジャンルで見られないこの慣用句を、生徒に「知っておきたい」ものとして扱ってよいか疑問が残る。むしろ語注を付け

[表3]

注意すべき語句	掲載数	総数	流・書籍	生・書籍	生・雑誌	生・新聞	知恵袋	ブログ
暇を出す	3	26	30.8%	3.8%	38.5%	0.0%	0.0%	0.0%
途方に暮れる	4	236	43.6%	30.5%	5.1%	0.4%	3.8%	6.4%
片を付ける	5	23	43.5%	17.4%	0.0%	0.0%	13.0%	13.0%
人目に掛かる	1	1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
息を殺す	4	112	51.8%	28.6%	0.0%	0.9%	1.8%	2.7%
高を括る	5	85	34.1%	41.2%	27.1%	1.2%	3.5%	9.4%
声を和らげる	1	7	28.6%	57.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
縄を掛ける	2	21	57.1%	9.5%	4.8%	0.0%	4.8%	0.0%
大目に見る	4	124	37.1%	24.2%	2.4%	0.0%	18.5%	6.5%
念を押す	2	451	47.7%	31.3%	2.4%	2.0%	2.4%	2.0%

19) [表3]の見出し語の「掲載数」は、山森（2006）調査5社中の掲載教科書数を指す。また総数以下見出しはテキスト・ジャンルを示す。「流・書籍」は、流通実態（図書館）サブコーパスに含まれる書籍など。その他は2節の語彙レベルの説明部分を参照のこと。尚 BCCWJ のテキスト・ジャンルには他に、教科書、白書、広報誌などがある。

て、「羅生門」を読解するために必要な語句として扱うほうが適切である。

また割合をみると、ほとんどの慣用句が「流通・書籍」と「生産・書籍」に出現が偏っていて、逆に新聞やネット上では出現が少ないことが分かる。つまり、慣用句を「知っておきたい」場面は、主に書籍の書き言葉に触れる場合であるということになる。曖昧な規範意識や教育的見地から、「知っているべきだ」と教えるのではなく、どのような場面に必要なのかを適切に教える。それこそが本来あるべきことばの指導の姿である。

このようにコーパスを用いて検証することで、一つの教材中の慣用句が、どの程度社会で用いられているかを知ることができる。コーパス上の出現頻度と、その語句の言語上あるいは教育上の重要度とが、必ずしも合致するものではないだろう。しかし、実生活に生きたことばの力を育成することが求められる学校教育において、自ずと社会における出現頻度は考慮され、指導に反映されて然るべきである。

## 6. お わ り に

定番教材の語彙の検証にはすでに田中 (2011)<sup>20)</sup> による中学校教科書定番教材の「少年の日の思い出」の語彙研究や、鈴木 (2011)<sup>21)</sup> による、やはり中学校の「走れメロス」の語彙研究などがある。田中氏、鈴木氏とも筆者と同じ「言語政策班」のメンバーで、田中氏はそのリーダーである。今後も両氏をはじめ、多くの賛同者とともに、コーパスの国語教育への活用に向けて提言を続けていきたいと考えている。

[2011. 9. 29 受理]

20) 田中牧郎『『少年の日の思い出』の語彙指導』7) に同じ, pp. 195-204

21) 鈴木一史「学習意識と語彙～実生活で生きてはたらく語彙～」, 『教育科学国語教育 No. 736』明治図書, 2011, pp. 84-87